

令和7年度
学習シラバス

— 第2学年 —



鈴鹿市立神戸中学校

2年 【国語】

教科の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し、適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

学習のしかた

- ・【見 通 し を も つ】学習課題や目標を確認し、学習の見通し（どんな方法で、どんな人と、どれだけの時間で取り組めばよいか等）をもとう。
- ・【集める・整理する】文章や資料をよく読み、課題解決に必要な情報を集めよう。また、集めた情報を内容ごとに整理しよう。このとき、わからない語句の意味について積極的に調べたり、本文を何度も読み直したりすると理解が深まります。
- ・【内 容 を 捉 え る】文章の構成や登場人物の心情の変化などに注意して、内容を捉えよう。
- ・【組 み 立 て る】自分の考えが相手にわかりやすく伝わるように、自分の考えを組み立て、意見の伝え方を工夫しよう。
- ・【伝 え 合 う】友達や先生と自分の考えを伝え合い、自分の表現をより良いものにしよう。
- ・【振 り 返 る】自分が学んだことや、学び方について振り返り、次の学習に生かそう。

※情報を集めたり整理したり表現したりする際には、積極的に友達や先生と考えを共有したり比べたりすることが大切です。また、これまでに習得した学習方法を利用するのも効果的な学習のしかたです。

授業で使用するもの

- ・国語の教科書
- ・ワーク「国語の学習2」
- ・漢字ワーク「漢字ノート2」
- ・オレンジファイル（3年間同じものを使います。）
- ・書写の教科書（3年間同じものを使います。）
- ・文法ワーク「すらすら基本文法」（3年間同じものを使います。）
- ・便覧「新・国語の便覧」（3年間同じものを使います。）

*毎回の授業ですべて必要というわけではありません。

学期ごとの学習内容と学習のねらい・第2学年

学習すること		学習のねらい
1 学期	1 オリエンテーション	○授業の進め方を知り、目標を持って積極的に学習に取り組む。
	2 見えないだけ (詩)	○リズムを感じながら繰り返し音読し、詩に込められた思いを捉える。
	3 アイスプラネット (小説)	○登場人物の設定に着目し、人物像や、人物どうしの関係を読み取る。
	4 枕草子 (古文)	○作者のものの見方や感じ方に触れ、自分が感じる四季の趣と比べて、読み味わう。
	5 魅力的な提案をしよう	○話の構成を工夫し、資料や機器を使って、自分の考えをわかりやすく話す。
	6 クマゼミ増加の原因を探る (報告)	○文章全体と部分との関係や文章と図表との関係に注意して読む。
	7 情報を整理して伝えよう	○目的に応じて多様な方法で材料を集め、整理して、伝えたいことを明確にする。
	8 漢字1 熟語の構成	○熟語の構成を理解し、漢字のもつ造語力の強さを知る。
	9 短歌に親しむ (短歌・解説)	○短歌に用いられた、表現の効果について考える。
	10 短歌を味わう (短歌)	○歌われている情景や作者の思いを想像しながら読む。
	11 言葉の力 (随筆)	○文章を読み、知識や経験と結び付けて考えを深める。
	12 言葉1 類義語・対義語・多義語	○類義語・対義語を学び、語句の意味や用法の違いに関心を持ち、表現の幅を広げる。
2 学期	1 ヒューマノイド (小説)	○過去と現在、伏線と結末の関係を読み解き、登場人物の言動の意味を考える。
	2 字のない葉書 (随筆)	○文章の構成や、人物や出来事を語るときの表現から、筆者の思いを考える。
	3 表現を工夫して書こう	○自分の思いや用件が的確に伝わるように、表現を工夫して書く。
	4 言葉2 敬語	○敬語の意義や働き・種類を理解し、言語生活向上に役立てる。
	5 聞き上手になろう	○話の展開に注意して、相手の思いや考えを受け止め、質問する。
	6 漢字2 同じ訓・同じ音をもつ漢字	○漢字の読み方について理解し、文脈に応じて適切な意味の漢字を使い分ける。
	7 モアイは語る (論説)	○知識や経験を基に、文章の構成や論理の展開、筆者の主張を吟味する。
	8 適切な根拠を選んで書こう	○適切な根拠を選び、構成や記述を工夫して、自分の考えが伝わる意見文を書く。
	9 扇の的―「平家物語」から (古文)	○登場人物の言動の意味を考え、そこに表れたものの見方や考え方を捉える。
	10 仁和寺にある法師 ―「徒然草」から (古文)	○読み取った内容を自分の経験と結び付け、作者のものの見方について考える。
	11 漢詩の風景 (漢詩・解説)	○漢詩に描かれた情景や心情を読み取り、構成や表現の効果を考える。
	12 君は「最後の晩餐」を知っているか (評論)	○観点を明確にして文章を比較し、文章の構成や表現の効果について考える。
	13 文法への扉2 走る。走らない。走ろうよ	○用言(動詞・形容詞・形容動詞)の活用について理解する。
	14 立場を尊重して話し合おう	○異なる立場や意見を尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめる。
	15 書写	○漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解する。

3 学 期	1 百人一首	(小説)	○昔の歌に触れ、当時の人々の心情を捉える。
	2 走れメロス		○人物像や表現の効果など、自分の選んだ観点で作品の魅力を捉える。
	3 文法への扉3 一字違いで大違い		○付属語の働きを理解し、言語生活向上に役立てる。
	4 描写を工夫して書こう		○表現の効果を考えて描写を工夫したり、読み手からの助言を踏まえて自分の作品のよい点や改善点を見いだしたりする。
	5 言葉3 話し言葉と書き言葉		○話し言葉と書き言葉の特徴を理解し、適切に使い分ける。
	6 漢字3 送り仮名		○送り仮名の付け方を理解し、文章を読むときや、書くときに役立てる。
	7 国語の学びを振り返ろう		○互いの考えを尊重しつつ対話し、友達からの意見を踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだす。
	8 鍵（詩）		○詩を読んで感じたことを自分の経験と結び付け、考えを深める。

評 価 方 法 及 び 評 定 に つ い て

評価方法

観 点	達 成 目 標	評 価 対 象
知識・技能	・ 社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりしている。	・ 定期テストの観点別問題 ・ 漢字テスト ・ 暗唱 ・ 書写 ・ ワークシート 等
思考・判断・表現	・ 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	・ 定期テストの観点別問題 ・ スピーチ ・ ディスカッション ・ 読書感想文 ・ ノート ・ ワークシート 等
主体的に学習に取り組む態度	・ 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする態度を養っている。	・ 授業中の行動観察 ・ ノートや振り返り等の記述 ・ 課題への取り組み方 等

2年 【社会】

教科の目標

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成することを目指す。

- (1) 我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会にみられる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) 社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに多面的・多角的な考察や深い理解を通して我が国の国土や歴史に対する愛情、国民主権を担う国民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

テーマ：「防災・安全」「環境・エネルギー」「伝統文化・宗教」「人権・平和」

学習のしかた

- ・日常の授業への意欲的な取り組みが一番大切です。そのためにも、忘れ物をせず授業の準備をして、積極的に取り組みましょう。
- ・自分なりに考えて意見を持ちましょう。
- ・自分の考えをしっかりと発信しましょう。
その際には、資料や今までの学習などの根拠をもとに、理由も踏まえながらの発信に心がけましょう。
- ・ほかの人の考えにもしっかりと耳を傾けましょう。自分の意見と比べてみて同じところや違うところはどこか考え、それによってさらに思考を深めていきましょう。
- ・定期テストについては、普段の授業の内容をワークなどを使ってよく復習しておきましょう。
- ・ワークについては定期的に提出をしてもらいます。提出日は予告をしますから、期限を守って計画的に取り組み、提出しましょう。
- ・プリントへは、黒板に書かれたことだけでなく、自分で気づいたことやポイントだと考えるところを積極的に書きましょう。
- ・新聞やテレビから、社会で起こっている出来事を知りましょう。授業で学習した内容との関連を見つけるとともに今起こっていることへの社会事象への関心を高めましょう。
- ・学習した内容に関連する資料を集めたり、調べものをしたりして、追究を深めましょう。

授業で使用するもの

教科書、資料集、ファイル、地図帳、ワーク、プリント、クロムブック

学期ごとの学習内容と学習のねらい

学習すること		学習のねらい
一学期	地理的分野	第3部 日本のさまざまな地域 第1章 身近な地域の調査 第2章 日本の地域的特色 ①山がちな日本の地形 ②川がつくる地形と海岸や海洋の特色 ③日本の気候 ④日本のさまざまな自然災害 ⑤自然災害に対する備え ⑥日本の人口 ⑦日本の資源・エネルギーと電力 ⑧日本の農業・林業・漁業とその変化 ⑨日本の工業とその変化 ⑩日本の商業・サービス業 ⑪日本の交通網・通信網 ⑫さまざまな地域区分 第3章 日本の諸地域 第1節 九州地方 第2節 中国・四国地方
		●地形図を読み取る。 縮尺の大きな地図や写真などを活用し、土地利用・地形などを読み取り、身近な地域でみられるさまざまな地理的事象に気づく。 ●調査を通して、身近な地域の地理的特色をとらえる視点や地域調査の方法、地理的なまとめ方や発表の方法を身につけさせる。 ●日本の地形・気候などの特色を理解し、地域差があることを理解する。 ●さまざまな自然災害について理解し、防災意識を育む。 ●日本は人口が多く、人口密度が高い国で少子化・高齢化にともなう課題があることや過疎と過密地域があることを理解する。 ●日本は資源が乏しいが産業がさかんであること、環境やエネルギーに関する課題があることを理解する。 ●世界的視野から日本と世界の交通・通信網の発達の様子や物流、国内の交通・通信網の整備状況を理解し、日本と世界の結び付きや国内各地の結び付きの特色を知る。
		●九州地方の地域的特色について、環境問題や環境保全を産業や地域開発の動き等を通して理解する。 ●中国・四国地方の地域的特色について、都市と農村の変化を人々の生活や産業などを通して理解する。

評 価 方 法 及 び 評 定 に つ い て

評価方法

観 点	達 成 目 標	評 価 対 象
知識・技能	・ 社会的事象を理解するとともに、調査や諸資料から地理・歴史に関する様々な情報を効果的に調べている。	・ 定期テスト ・ 単元テスト ・ 授業中の発言
思考・判断・表現	・ 社会的事象を多面的・多角的に考察したり、課題解決に向けて公正に選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。	・ 定期テスト ・ 単元テスト ・ レポート課題 ・ プリントなどの記述 ・ 授業中の発言 ・ グループ学習での取り組み ・ 振り返りシートへの記述
主体的に学習に取り組む態度	・ 社会的事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究・解決しようとしている。	・ 授業中の発言 ・ グループ学習での取り組み ・ プリントなどの記述 ・ レポート課題 ・ 自主学ノートへの取り組み

その他

○観点別評価から評定へ

観点別評価によって、5段階評定をつけます。ただし、観点別評価の組み合わせによって評定が2通りの場合があります。その場合は各観点の総合点により、評定を決めます。

2年 【数学】

教科の目標

数学的な活動を通して、数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則についての理解を深め、数学的な表現や処理の仕方を習得し、事象を数理的に考察し表現する能力を高めるとともに、数学的活動の楽しさや数学のよさを実感し、それらを活用して考えたり判断したりしようとする態度を育てる。

学習のしかた

- ・ 授業前に準備物を用意し、チャイム着席をする。
- ・ ノートは、丁寧に見やすく書く。ポイントや注意するところをわかりやすく書く。
- ・ 問題に取り組むときは、答えだけでなく途中の式も書くようにする。
また、間違えた答えは消さずに残しておく。
- ・ 積極的に発表や質問をし、先生の説明をしっかりと聞く。
また、他の人の発表もしっかり聞き、さまざまな考え方を知る。
- ・ 授業を受ける前に予習をしておき、授業で習ったことは、その日のうちに復習をしておく。
- ・ たくさんの問題に取り組み、難しい問題にもあきらめず挑戦していく。

授業で使用するもの

教科書、ノート、PC、ファイル（1年生時に使用したもの）、ワークシート

学期ごとの学習内容と学習のねらい

学習すること		学習のねらい
1 学 期	1章 式の計算 ・ 式の計算 ・ 文字式の利用	○具体的な事象の中から見いだした数量関係を、文字を用いて式に表したり、式の意味を読みとったり、目的に応じて式を変形したりする力を養うとともに、文字を用いた式の四則計算ができるようにする。
	2章 連立方程式 ・ 連立方程式 ・ 連立方程式の利用	○文字式で身につけた能力を基に、連立二元一次方程式について理解し、それを用いて考察することができるようにする。
2 学 期	3章 一次関数 ・ 一次関数とグラフ ・ 一次関数と方程式 ・ 一次関数の利用	○具体的な事象の中から2つの数量を取り出し、それらの変化や対応を調べることを通して、一次関数について理解するとともに、見いだした関数関係を式や表、グラフを用いて表現し、考察することができるようにする。
	4章 図形の調べ方 ・ 平行と合同 ・ 図形の性質の利用 ・ 証明	○観察や操作などの活動を通して、基本的な平面図形の性質を見いだすとともに、平行線の性質や三角形の合同条件を用いて、それらを証明することができるようにする。
	5章 図形の性質と証明 ・ 三角形	○図形の合同について理解し、図形についての見方を深めるとともに、図形の性質を三角形の合同条件などを基にして確かめ、論理的に考察し、表現することができるようにする。
3 学 期	・ 四角形 ・ 図形の性質と証明の利用	○平行線の性質や三角形の合同条件を使って、平行四辺形の性質を調べ、四角形がどのような条件をもてば平行四辺形になるかを論理的に考えることができるようにする。
	6章 場合の数と確率 ・ 場合の数と確率 ・ 確率の利用	○不確定な事象についての観察や実験などの活動を通して、確率について理解し、それを用いて考察し、表現することができるようにする。
	7章 箱ひげ図とデータの活用 ・ 箱ひげ図	○資料の散らばりの程度に関心をもち、四分位数や四分位範囲をもとに箱ひげ図をかき、資料の傾向を読みとることができるようにするとともに、それらの意味や必要性を理解できるようにする。

評価方法及び評定について

評価方法

観 点	達 成 目 標	評 価 対 象
知識・技能	・ 数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	・ 単元テストの観点別問題 ・ 定期テストの観点別問題 ・ ノートの記述内容 ・ ワークシートの記述内容 等
思考・判断・表現	・ 数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見いだし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。	・ 単元テストの観点別問題 ・ 定期テストの観点別問題 ・ ノートの記述内容 ・ ワークシートの記述内容 等
主体的に学習に取り組む態度	・ 数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養っている。	・ 単元テストの観点別問題 ・ 定期テストの観点別問題 ・ 授業中の行動観察 ・ 振り返りの記述内容 ・ テスト反省用紙の記述内容 ・ 宿題や提出物への取組状況 等

その他

○観点別評価から評定へ

観点別評価をもとに、5段階評定をつけます。

2年【理科】

教科の目標

自然の事物・現象に進んで関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察・実験などを行い、科学的に探究する力と態度を養うとともに、自然の事物・事象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な技能を身につける。

学習のしかた

- ・授業を積極的に取り組みましょう。
- ・観察や実験には、真剣にのぞみ、正確かつ丁寧に取り組みましょう。
- ・実験の予想や考察など、班での話し合いを大切にしましょう。
- ・実験・観察レポートやプリントなどの提出期限を守りましょう。
- ・疑問に感じたことはそのままにせず、いつでも質問に来てください。

授業で使用するもの

教科書、ノート、資料集、ワーク、定規、chromebook

年間学習計画と学習のねらい

理科			
	学習すること		学習のねらい
1学期	化学変化と原子・分子	物質の成り立ち	物質を分解する実験を行い、分解して生成した物質からもとの物質の成分が推定できることを見いだす。また、物質は原子や分子からできていることを認識する。
		物質の表し方	原子や分子を化学式で表すことができる。また、化学式・化学反応式によって、物質の組成や化学変化を表すことができる。
		さまざまな化学変化	2種類の物質が反応して結びつく実験を行い、反応前とは異なる物質が生成することを見いだす。また、さまざまな化学変化を原子・分子のモデルや化学反応式を用いて説明できるようになる。さらに、酸化と還元が同時に起きていることや、化学変化に伴う熱の出入りについても認識し、それらが日常生活にも多く利用されていることに気づく。
		化学変化と物質の質量	化学変化に関係する物質の質量を測定する実験を行い、化学変化の前後では物質の質量の総和が等しいこと、および反応する物質の質量の間には一定の関係があることを見いだす。
	生物	生物の体をつくるもの	生物の組織などの観察を行い、生物の体が細胞からできていること、および植物と動物の細胞のつくりの特徴を見いだし理解する。

2 学 期	の 体 の つ く り と は た ら き	植物の体のつくりとはたらき	植物の葉や茎、根のつくりについての観察を行い、それらのつくりと、光合成、呼吸、蒸散のはたらきに関する実験の結果とを関連づけて理解する。
		動物の体のつくりとはたらき	消化や呼吸、血液の循環についての観察・実験を行い、動物の体が必要な物質を取り入れ運搬しているしくみを観察・実験の結果と関連づけて理解する。また、不要となった物質を排出するしくみがあることを理解する。
		動物の行動のしくみ	動物が外界の刺激に適切に反応している様子の観察を行い、そのしくみを感覚器官、神経および運動器官のつくりと関連づけて理解する。
	地 球 の 大 気 と 天 気 の 変 化	地球をとり巻く大気の様子	地表にあるもののすべてに大気圧がはたらいていることを理解させ、身のまわりの大気の状態を認識する。また、身のまわりの大気の状態を観測結果などを利用し、気象要素の変化と天気の変化の関係を見いだす。
		大気中の水の変化	霧や雲のでき方を、空気中の水の変化と関連づけて理解する。また、地球上の水がさまざまな状態で存在し、霧、雲、雨や雪はその循環の一部であることを認識する。
		天気の変化と大気の動き	気圧配置によって、大気の動きが生じることを理解する。また、日本付近の高気圧や低気圧の移動と、それに伴う天気の変化を、地球規模の大気の動きの一部として捉える。
		大気の動きと日本の四季	大陸と海洋の温度差によって生じる大気の動きが、日本の気象に影響を与えることを理解する。さらに、日本付近で盛衰する3つの気団と関連づけながら、日本の四季の天気の特徴とそれが生じるしくみを理解する。
3 学 期	電 流 と そ の 利 用	電流の性質	回路の基本的な性質や、電圧と電流の関係について規則性を見いだすとともに、実験機器の操作や実験結果の処理についての技能を習得する。
		電流の正体	日常生活と関連づけながら静電気の性質について調べ、静電気と電流には関係があることを見だし、真空放電の観察から、電流の正体について理解する。
		電流と磁界	日常生活と関連づけながら、電流の磁気作用や電流と磁界との相互作用を理解し、直流と交流の違いを捉える。

評価方法及び評定について

評価方法

観 点	達 成 目 標	評 価 対 象
知識・技能	・ 自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につける。	・ 定期テスト （中間・期末・学年末） ・ 授業中に行う各種テスト ・ 実験・観察レポート ・ 自由研究
思考・判断・表現	・ 自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究する。	・ 定期テスト （中間・期末・学年末） ・ 授業中に行う各種テスト ・ 実験・観察レポート ・ 授業での発表内容 ・ 自由研究
主体的に学習に取り組む態度	・ 自然の事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり、振り返ったりするなど、科学的に探究しようとする。	・ ノート、ワーク、プリントの取り組み状況 ・ 活動の様子 ・ 自由研究 ・ 授業中に行う各種テスト

その他

○観点別評価から評定へ

観点別評価によって、5段階評定をつけます。ただし、観点別評価の組み合わせによって評定が2通り場合があります。その場合は各観点の総合点により、評定を決めます。

理科室の使い方



理科室に入ったら…

- ・席は決められた場所に座りましょう。
- ・走り回ったり、遊ぶことがないようにしましょう。

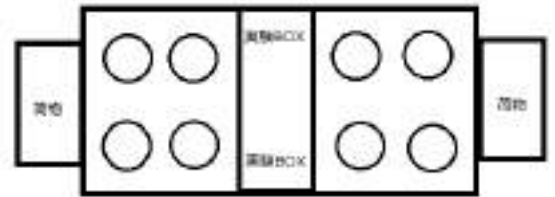
授業開始！

- ・安全に実験をおこなうためにも、先生の指示をきちんと聞きましょう。
(危険な薬品を使用する場合があります。)

- ・理科準備室は生徒立ち入り禁止です。

実験時…

- ・実験開始前にぬれた雑巾を準備しましょう。
- ・実験めがね等着用する場合は、きちんと着用しましょう。
- ・実験机の上は必要最低限のものだけにし、
実験机横のロッカーに荷物を置きましょう。
- ・実験BOXは水道の上に置きましょう。
- ・実験中は原則イスを実験机の下にしまい、
立って行いましょう。
- ・実験器具は大切に使いましょう。
万が一、実験器具を破損した場合やケガをしてしまった場合は、
速やかに先生に報告しましょう。
- ・班で協力して取り組みましょう。



実験終了！

- ・片づけは先生の指示に従いましょう。
実験器具を洗う場合はきちんと洗浄しましょう。

- ・次のクラスが気持ちよく使えるように実験机はきれいにして帰りましょう。

※ルールを守れない人がいた場合、実験ができなくなってしまう場合もあります。
みんなで安全に実験ができるよう協力して頑張りましょう！

2年 【音楽】

教科の目標

- (1) 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付ける。
- (2) 曲にふさわしい音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができる。
- (3) 主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、音楽に親しんでいく態度を養う。

学習のしかた

- ・授業前に準備物を確認し、チャイム着席をする。
- ・【本時のめあて】を確認し、目標を持って授業に取り組む。
- ・個人の活動、グループ練習、全体練習などは、目的意識を持って積極的に取り組む。
- ・自分のイメージや思いを仲間に自信を持って伝えたり、仲間の意見もしっかりと聴いたり良さや違いを認め合う。
- ・振り返りシートに【本時のめあて】が達成されたか、何を学ぶことができたか等を記入する。
- ・自分が使用した机やイスは整頓してから教室に戻る。イスは必ず上にあげて、イスの靴下を4つはめる。

授業で使用するもの

- | | | |
|----------------|---------|--------------|
| ・音楽の教科書(2・3年上) | ・器楽の教科書 | ・コーラスフェスティバル |
| ・音楽ファイル | ・筆記用具 | |

年間学習計画と学習のねらい

学習すること		学習のねらい
1 学 期	* オリエンテーション * 呼吸法、発声法 1 歌唱「翼をください」 2 鑑賞曲「交響曲第 5 番ハ短調」 3 歌唱「夏の思い出」 4 創作 「構成を工夫して、言葉によるリズムアンサンブルをつくろう」 5 合唱コンクールへの取り組み 学年合唱曲 クラス曲	○授業を受けるためのルールや目標等を理解する。 ○歌唱に必要な呼吸や発声を身に付ける。 ○パートの役割を理解して合唱する。 ○曲の構成に注目しながら曲想の変化を味わう。 ○情景を思い浮かべながら、言葉を大切に歌う。 ○作曲するにあたっての必要な楽典を復習する。 ○クラス全員が合唱曲と向き合い作り上げていく中で、頑張っている仲間を認め協力しながら、試行錯誤を繰り返し曲を完成させる充実感や達成感を味わう。
2 学 期	6 合唱コンクールへの取り組み 学年合唱曲 クラス曲 7 鑑賞「フーガ短調」 8 器楽「ギター」 「カントリーロード」	○歌詞や旋律にふさわしい表現を工夫し、指揮やピアノに合わせて豊かに歌う。 ○旋律が重なり合っていく面白さを味わう。 ○ギターの奏法を知り、曲を演奏する。 英語の歌詞の歌に触れ、弾き歌いができる。
3 学 期	9 鑑賞「アイダ」 10 創作 「言葉の抑揚を生かして旋律をつくらう」 11 まとめ	○オペラに親しみ、その音楽を味わう。原語の語感を感じ取る。 ○作曲の方法を理解し、曲のイメージを固める。 自分がイメージしたものを、音楽を形作っている要素と関連させながら作曲する。

評価方法及び評価について

○評価方法…3 観点を ABC で表し、1～5の評価をつけます。

観 点	達 成 目 標	評 価 対 象
知識・技能 ・曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。	曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付けるようにする。	活動の様子 歌唱・演奏の様子 鑑賞の様子 定期テスト 実技テスト 各種プリントの内容 や感想文 振り返りシート
思考・判断・表現 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい音楽表現としてどのように表すかについて思いや意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。	曲にふさわしい音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。	
主体的に学習に取り組む態度 音や音楽、音楽文化に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、音楽に親しんでいく態度を養う。	

2年 【美術】

教科の目標

表現や鑑賞などの幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせて、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育成することを目指す。

- (1) 形や色彩、材料、光の性質など、ものごとをとらえるときの視点について理解する。表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。
- (2) 作品のよさや美しさ、表現の意図や工夫などについて考え、作品に生かすことができるようにする。豊かに発想して作品のアイデアを練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- (3) 創造活動の喜びや、美術を愛好する心情を育て、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養う。表現や鑑賞の幅広い活動を通して美術の創造的活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育てるとともに感性を豊かにし、美術の基礎的能力を伸ばし、豊かな情操を養う。

学習のしかた

- ・ 準備物を確認し、チャイム着席で授業にのぞむ。
- ・ 私語を慎み、集中して制作に取り組む。
- ・ 本時のめあてや制作のポイントを的確に把握し、課題に対して主体的に取り組む。
- ・ 創作活動を振り返り、今後の創作に生かせるようにする。
- ・ 他者の意見や作品を参考にしながら創意工夫して、作品を制作する。
- ・ 技法や用具などの基本的知識を理解し、自分なりの表現方法を創意工夫する。
- ・ 美術資料集などで知識や技能を幅広く身につけ、多様な表現や発想ができるようにする。
- ・ 作品に対しての自分たちの意見を伝え合いながら、協力して学習に取り組む。

授業で使用するもの

教科書 資料集 スケッチブック レタリング字典 鉛筆 ファイル
※デザインセット ※色鉛筆

※については、課題に応じて準備する。

年間学習計画と学習のねらい

題材		学習すること
1学期	1 ガイダンス	☐ 美術の授業における「ルール」や「心構え」を確認する。
	2 絵や彫刻 (デッサン)	☐ モチーフをじっくりと観察し、「形」「光と影」「質感」をとらえる。
	3 鑑賞	☐ 作品の良さや、美術の歴史に触れる。 ☐ 自分の感じたこと、考えたことを発表にする。
2学期	1 デザインや工芸 (モダンテクニック)	☐ 「スパッタリング」や「ドリップング」などの技法を学ぶ。
	2 デザインや工芸	☐ 伝統的な色彩や文様を生かしたデザインの構成を考え、表現する。
	3 鑑賞	☐ 過去の作家の作品の鑑賞を通して、歴史的背景等もふまえて、その画家や作品についてより深く知る。
3学期	1 絵や彫刻 (立体)	☐ 「質感」「形」などにこだわり、制作する。 ☐ 考えたデザインをもとに立体にする。

評価方法及び評定について

評価方法

観 点	達 成 目 標	評 価 対 象
知識・技能	形や色彩、材料、光などの性質や、さまざまな技法や用語など造形的な視点について理解できているか。意図に応じて、身につけた表現方法を十分に活用し表現できているか。	- 作品（制作過程含む） - 定期テストの観点別問題 - ワークシート等
思考・判断・表現	これまでに学んだことについて独創的・総合的に考え、工夫して、作品に生かすことができているか。作品についての主題を豊かに発想し、構想を練ることができているか。美術文化に触れたり、美術作品などを鑑賞したりすることで、作品についての見方・考え方を深めることができたか。	- 作品（制作過程含む） - 定期テストの観点別問題 - 鑑賞の発言や記述 - ワークシート等
主体的に学習に取り組む態度	美術について主体的に関わる姿勢を持ち、授業に取り組むことができているか。表現、鑑賞活動の制作過程において、よりよい作品を制作しようと調整や工夫をおこなおうとしているか。お互いの個性を生かしあい、協力して制作できているか。	- 授業中の発言・行動 - ワークシートや振り返りの記述 - 表現や鑑賞への取り組み方

2年 【保健体育】

教科の目標

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次の通り育成することを目指す。

- (1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- (3) 生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。

学習のしかた

○時間を守る。

○集合・整列を素早く行う。

○あいさつをきちんと行う。

○服装をきちんと整える。

○安全に気を配って活動する。

○運動を積極的に行う。

○技を工夫し、練習する。

○自己の能力に合った技を正確に行う。

○基本的技能を理解する。

○ルールや試合の運営方法を学び、ゲームに親しむ。

○日頃から健康管理を心がけ、日々の授業に集中できるようにする。

《事故や怪我などを防止するために》

・事故や怪我などを防止するために、授業の前に自己の健康状態を確認しよう。

・練習や試合をするにあたっては、自己の健康状態や体力を十分理解し、施設・用具等の安全を確かめよう。

・運動の難易度や自己の技能の程度を知ってから行いましょう。

授業で使用するもの

体操服、運動靴、体育館シューズ、中学保健体育、中学体育実技、保健学習ノート、ファイル

年間学習計画と学習のねらい

	学習する内容	学習のねらい
1 学 期	○体づくり運動 ○集団行動 ○新体力テスト ○器械運動(跳び箱) ○水泳 ○陸上競技 (跳躍種目) ○体育理論 ○保健 ・健康な生活と病気の予防	・自己の体力や生活に応じて、体の調子を整えるなどの体ほぐしや体力の向上をねらいとする。 ・集団として必要な行動の仕方を身に付け、能率的で安全な集団としての行動ができるようにする。 ・運動をする時には、自己の体力と適性を知ることが必要である。従って、自己の体力の現状を正しく理解する。 ・今もっている技能を把握し、新しい技にチャレンジしていく。 ・第1学年とは異なる泳法で時間や距離に挑戦する。 ・助走のスピードを利用し、より高く跳ぶことをねらいとする。 ・仲間と協力して、共に運動に取り組む。その中で自分達の課題を見つけ、その課題克服にむけての練習方法を計画できるようになる。 ・運動やスポーツの合理的な実践を通して、運動やスポーツへの多様な関わり方を身に付ける。(※) ・生活習慣と健康・病気との関係を理解し、学んだ知識を基に予防や回復、防止のためにどうすればよいか考え実践することができる。
2 学 期	○球技 (ベースボール型・ネット型) ○陸上競技 (長距離走) ○武道 ○体育理論 ○保健 ・傷害の防止	・今もっている技能を活用してゲームを行い、チームで攻撃や守備の作戦を立ててゲームができるようにする。 ・ある特定の長い距離を速く走り通し、記録の向上をねらったり競争したりする。 ・技ができる楽しさや喜びを味わい、武道の特性や成り立ち、伝統的な考え方、技の名称や行い方を理解し、基本動作や基本となる技を用いて攻防することができる。 ・(※)と同じ。 ・自然災害や交通事故などによる傷害は、人的要因や環境要因などがかわりあって発生していることを理解する。また、安全な行動、環境の改善によって防止することを知る。
3 学 期	○球技 (ゴール型・ネット型) ○体育理論 ○保健 ・健康な生活と病気の予防	・今もっている技能を活用してゲームを行い、チームで攻撃や守備の作戦を立ててゲームができるようにする。 ・(※)と同じ。 ・喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為は、心身にさまざまな影響を与え、健康を損なう原因となることを理解する。

※年間を通して、各単元で「体育理論」を行う。

※他学年との場所の調整や学校行事・天候等により、上記にあげた種目を変更する場合があります。

評価方法及び評定について

評価方法

観 点	達 成 目 標	評 価 対 象
知識・技能	運動の合理的な実践に関する具体的な事項及び生涯にわたって運動に親しむための理論について理解している。 個人生活における健康・安全について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。 運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じた基本的な技能を身につけている。	授業での発言及び内容 定期考査 行動観察 実技テスト
思考・判断・表現	生涯にわたって運動に親しむことを目指して、学習課題に応じた取り組み方や健康の保持及び体力を高めるための運動の組み合わせ方を工夫している。 個人生活における健康・安全について、課題の解決を目指して考え、判断し、それらを表している。	行動観察 授業での発言及び内容 自己評価・学習カード 定期考査
主体的に運動に取り組む態度	運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、運動の合理的な実践に積極的に取り組もうとする。 個人生活における健康・安全について関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとする。	行動観察 授業での発言及び内容 自己評価・学習カード

2年 【技術・家庭科】

教科の目標

生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせ、生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を目指す。

<技術分野>

- 1) 生活や社会で利用されている材料、加工、生物育成、エネルギー変換及び情報の技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深める。
- 2) 生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、製作図等に表現し、試作等を通じて具体化し、実践を評価・改善するなど、課題を解決する力を養う。
- 3) よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

<家庭分野>

- 1) 家族、家庭の機能について理解を深め、家族・家庭で、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けけるようにする。
- 2) 家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を養う。
- 3) 自分と家族・家庭生活と地域とのかかわりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

学習のしかた

- ・授業の準備物をチャイムが鳴るまでに用意して着席しておく。
- ・人の話をしっかり聴いてさまざまな見方・考え方を知り、授業に主体的に取り組む。
- ・学習プリントやワークの記入・課題の取り組みをしっかりと行ない、期日までに提出する。(×切厳守)
- ・実習や作業の時は、指示のあった服装で取り組み、準備物は忘れない。
- ・作業内容をよく理解し、周りの人と協力しあい、正確で丁寧な作業に心がける。
- ・安全に留意し道具や工具、機器を適切に使用し、自分勝手な行動をしない。
- ・与えられた課題に対し、しっかり取り組む。

授業で使用するもの

- ・教科書（ハンドブック） ・ファイル ・学習プリント（ワークシート）
- ・技術実習時：体操服で行います。
- ・調理実習時：エプロン、三角巾、マスク、ふきん3枚、手拭タオル1枚など。
- ・教科書（ハンドブック）とファイルは3年間使用するので紛失しないこと。

年間学習計画と学習のねらい

	学 習 す る こ と	学 習 の ね ら い
1 学 期	《生物育成の技術》 ○生物を育てる技術を見つけよう ○生物を育てる技術を知ろう ○実習や見学の安全な進め方を知ろう ○生物を育てる技術の工夫を調べ考えよう ○生物育成の計画を立てよう ○家畜や水産生物を育てる技術を体験しよう ○社会の発展と生物育成の技術 《材料と加工の技術》 ○材料の技術と加工の技術を見つけよう ○材料の特性を調べよう ○問題を解決する工夫を考えよう	・生活や社会で利用されている生物の例を見つける ・生活や社会で利用されている生物育成の技術を見つける ・作物、家畜、水産生物などに共通の育てる技術がわかる ・生物の成長のしくみや環境に合わせて育てることがわかる ・安全に実習や見学を行うため必要なことを知る ・目的や生物の特性や習性に合わせて、管理作業がどのように工夫されてきたのかを見つけ、考える ・問題を解決するために、育てる生物と利用目的を考える ・生物を育てる目標と育成計画を考える ・利用目的に合わせた生物の種類を選び、育てる目標と育成計画を考える ・学習をふり返り、これからの生活や社会への生物育成の技術の役割や影響、生かし方を考える。 ・生活や社会で、材料が利用されている例を見つける ・加工法や道具の例を見つける ・材料の特性や加工法の特性を知る ・材料の特性に合わせて加工する技術を選ぶことを知る ・目的や条件などに合わせて、材料や加工法がどのように工夫されてきたのかを見つけ、考える
2 学 期	《材料と加工の技術》 ○実習の安全な進め方を知ろう ○設計の仕方を知ろう ○図や表を読み取ろう ○設計に沿った製作をしよう	・安全に実習するために必要なことを知る ・設計の流れに沿って、問題を解決する手順を知る ・使用目的や使用条件に合う、製作品が設計できる ・図法の約束ごとを知り、製作に必要な図をかくことができる ・使用目的や条件に合う自分の製作品を設計できる ・設計に沿って、安全で正確に製作できる ・使用目的や条件に合う製作品を完成できる
3 学 期	《材料と加工の技術》 ○設計に沿った製作をしよう ○社会の発展と材料と加工の技術	・使用目的や条件に合う自分の製作品を設計できる ・設計に沿って、安全で正確に製作できる ・使用目的や条件に合う製作品を完成できる ・学習をふり返り、材料と加工の技術のこれからの未来における役割や影響、誠実な生かし方を考える

年間学習計画と学習のねらい

学習すること		学習のねらい
1 学 期	<家族・家庭や地域とのかかわり> ○自分の成長と家族や家庭生活のかかわりを考えよう ○家庭や家族の基本的な機能、家庭生活と地域とのかかわりを考えよう ・高齢者など地域の人々との関わり	・家族の基本的なはたらきと、家族の役割分担を理解する。 ・自分の成長と家族のかかわりを理解する。 ・自分の成長や生活は、家庭や家族にかかわる人々に支えられてきたことに気づく。 ・高齢者など地域の人々と関わり、協働する方法を考えることができる。
2 学 期	<幼児の生活と家族> ○幼児の心身の発達 ・生活習慣の習得 ・幼児の生活と遊び ・幼児のおもちゃ製作 ○幼児の発達と家族の役割 ・幼児とのふれあい ・保育実習 ・調理実習	・幼児の心身の発達を知る。 ・発達段階に応じた生活習慣の習得や家族の役割について理解する。 ・幼児にとっての遊びの大切さを理解する。 ・幼児が喜ぶおもちゃを製作することができる。 ・幼児の心身の発達を考えた遊びやかかわり方を工夫することができる。 ・幼児を観察したり、実際にふれ合ったりすることを通じて、幼児についての理解を深める。 ・幼児のおやつの調理ができる。
3 学 期	<生活を豊かにする製作> ○布を用いた製作 ・被服実習	・衣服の補修に必要な基礎縫いを習得することができる。 ・生活を豊かにするものを考え製作の計画をたて、必要な材料や道具を安全で効率的に使うことができる。

評価方法及び評価について

評価方法

観 点	達 成 目 標	評 価 対 象
知識・ 技能	生活や社会で利用されている材料、加工、生物育成、エネルギー変換及び情報の技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深めている。 衣食住や家族の生活、消費生活などについて、生活の自立に必要な基礎的・基本的な機能について理解をして、適切な選択や用具の安全な取り扱い、適切な製作ができる技能が身に付いている。	○定期テスト ○実習への取り組み方 ・実習作業の様子 ・作品の精度 ○学習プリントの内容
思考・ 判断・ 表現	生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして、課題を設定し、解決策を構想し、製作図等に表現し、試作等を通じて具体化し、実践を評価・改善するなど、課題を解決する力を身に付けている。 衣食住や家族の生活、消費生活などについて、これからの生活を展望し、家族・家庭や地域の生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている	○学習プリントの内容 ○実習への取り組み方 ○定期テスト
主体的に 学習に取り 組む態度	主体的に材料、加工、生物育成、エネルギー変換及び情報の技術について考え、理解しようとしている。また、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し、創造しようとしている。 衣食住や家族の生活、消費生活などについて、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。	○学習プリントの内容 ○学習プリントや宿題の提出・整理状況 ○授業の準備 ○授業態度・発表内容 ○実習への取り組み方 ○定期テスト

その他

観点別評価は、技術分野での評価と家庭分野での評価を合わせ、総合的に評価します。

評価は評価表に基づいてつけます。観点により、比重が異なることがあります。

2年 【英語】

教科の目標

- (1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。
- (2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。
- (3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

学習のしかた

- ・積極的に発表や質問をし、先生の説明をしっかり聞く。また、他の人の発表もしっかり聞き、さまざまな考え方を知る。
- ・授業中のペアワークやグループ活動に積極的に取り組む。
- ・ノートやワークシート等は、丁寧に見やすく書く。ポイントや注意するところをわかりやすく書く。
- ・粘り強く課題に取り組み、新出事項を覚えるようにする。

授業で使用するもの

教科書、ノート、ワークセット、ファイル、chromebook

年間学習計画と学習のねらい

学習すること		学習のねらい
1 学期	・ 過去形・過去進行形 ・ There is /are の文 ・ 未来形 (will/be going to～) 5つの文構造 ・ 接続詞 (when/if/that/because) ・ 不定詞	一般動詞・be 動詞・過去進行形の過去形を含む文を正しく理解し使えるようになる。 There is /are を含む文を正しく理解し使えるようになる。 未来形を含む文を正しく理解し使えるようになる。 目的語を2つ持つ文や目的語と補語を持つ文を正しく理解し使えるようになる。 接続詞 when/if/that/because を含む文を正しく理解し、使えるようになる。 不定詞の用法を正しく理解し、使えるようになる。
2 学期	・ 助動詞 (have to/don' t have to/must/must not) ・ 動名詞 ・ 疑問詞+to 不定詞 be + 形容詞 + that の文 ・ 比較表現	助動詞の用法を正しく理解し、使えるようになる。 動名詞を含む文を正しく理解し、使えるようになる。 how to～, that 主語+動詞 等を含む文を正しく理解し、使えるようになる。 原級・比較級・最上級を含む文を理解し、正しく使えるようになる。
3 学期	・ 受け身	受け身を含む文を正しく理解し、使えるようになる。

授業の受け方





やす じ かん
休み時間のうちに・・・



つぎ じゅぎょう じゅんび
★次の授業の準備をしよう！

やす じ かん つぎ じゅぎょう じゅんび
休み時間のうちに次の授業の準備をしましょう。

きょうしつ どう ばあい すみ いどう
教室移動がある場合は、速やかに移動しておきます。トラブルのもとになるので、
わす 物 ひと か じゅぎょう はじ
忘れ物をして人に借りないようにしましょう。授業が始まってからロッカーへ用意
と い いう わす たんとう せんせい きょか え
を取りに行くのもNG。もし、用意を忘れてしまったときは、担当の先生から許可を得て、
ほか ひと ま いそ じゅんび
他の人を待たせないように急いで準備しましょう。



な
チャイムが鳴ったら・・・

★あいさつをしよう！

じゅぎょう せんせい みな いっしょ きょうりょく あ
授業は先生と皆さんと一緒に作るものです。協力し合う
せんせい なかま たい じゅぎょう はじ お こえ
先生と仲間に対して、授業の始まりと終わりにはしっかり声を
だ
出してあいさつしましょう。

つくえ みぎがわ いっぽ で
あいさつのときは、机の右側に一歩出ます。



じゅぎょうちゅう
授業中は・・・ 主体的に学ぼう！

しゅたいてき まな ちから み
主体的な学びで、どんな力が身につくの？

しゅたいてき まな した ちから み
主体的な学びでは、下のような力が身につきます。

★自分^{じぶん}で課題^{かだい}を見つけ、解決^{かいけつ}する方法^{ほうほう}を考^{かんが}える力^{ちから}

★新^{あたら}しい情報^{じょうほう}や技術^{ぎじゆつ}を、積極^{せっきよく}的に学^{まな}ぶ力^{ちから}

★様^{さま}々な人^{ひと}と協^{きょうりょく}力^{りょく}して、新^{あたら}しいもの^うを生^だみ出^{ちから}す力

★めあてを元^{もと}に、授業^{じゅぎょう}の見通^{みとお}しをもとう！

めあてを意識^{いしき}し、必要^{ひつよう}な情報^{じょうほう}は何か^{なに}考^{かんが}えよう。そして、どのように取り組^{とく}めば課題^{かだい}
かいけつ む みとお も
解決^{かいけつ}に向かっていけるか、見通^{みとお}しを持ちましよう。

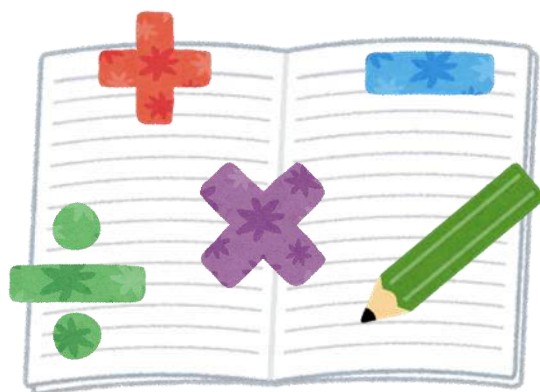
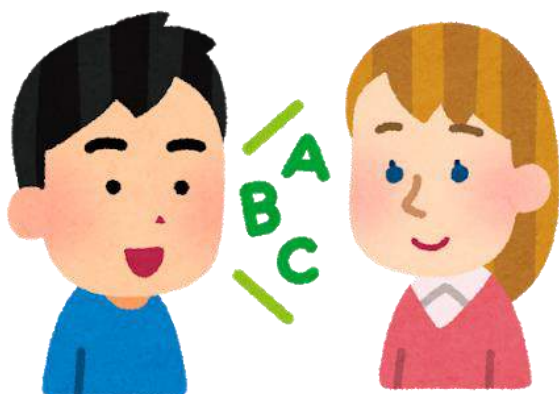
★自分^{じぶん}の目 標^{もくひょう}にあった学^{まな}び方^{かた}を選^{えら}んだり工夫^{くふう}したりしよう！

授業^{じゅぎょう}で出^だされた課題^{かだい}に取り組^{とく}むときに、どのように学^{まな}ぶと自分^{じぶん}の目 標^{もくひょう}に合^あっている
か考^{かんが}えて、取り組^{とく}もう。例^{たと}えば、その課題^{かだい}を解決^{かいけつ}するためには、個人^{こじん}で取り組^{とく}むか、複
数^{すうにん}人で取り組^{とく}むか選^{えら}んだり、複^{すうにん}数^{にん}人で取り組^{とく}む際^{さい}には、誰^{だれ}と取り組^{とく}むとよいか考^{かんが}えたり
りしてみましよう。

★自分の学びを振り返り、次の学びや生活に生かそう！

学習内容を文章や言葉で振り返ったり、確認問題に取り組んだりすることで、授業の内容を確実に理解できるように努めよう。毎回の授業をしっかりと振り返ることで、より授業の内容が定着しますよ。また、前の授業の振り返りから次の授業へつなげる部分を見つけ出し、理解を深めよう。

かていがくしゅう てび 家庭学習の手引き



なぜ家庭学習が必要なのだろう

中学校では・・・

- ・ 学習内容が多様になり、**自ら課題を見つけ解決する力**が必要になります。
- ・ **筋道を立てて考える力**や**広い視野で物事を見る力**がさらに必要になります。
- ・ 新しく学習したことを覚えるだけでなく、**生活に関連づけて自分の考えを言えること**が必要になります。
- ・ 自分の特性を理解してくるとともに、得意な教科・苦手な教科がはっきりとしてきます。

家庭学習をするとどうなるのだろう

- ☆好きなことが見つかる。
- ☆自分の考えが持てるようになる。
- ☆将来の選択肢が広がる。

家庭学習はどんなことをすれば良いのだろう

- ① 学習内容の定着を図るために、**復習**をしましょう。
- ② 今後の学習内容の見通しを持ち、授業に主体的に取り組むために、**予習**をしましょう。
- ③ 自分の関心のあること、より深く理解したいことについて、**自主学習**をしましょう。
(本や新聞を読んだり、辞典や図鑑を手にとって調べてみたりすると良いですね。)

家庭学習はどのようにすれば良いのだろう

家庭学習は「**習慣化**」することが大切です！ そのために・・・

- ① 何ができるようになればよいか、**目標**を明確に設定しましょう。
- ② 落ち着いて、学習に集中できる**環境とルール**をつくりましょう。
- ③ 「早寝・早起き・朝ごはん」の**基本的な生活習慣**を確立しましょう。
(家の仕事の手伝いをすることも大切です。)

明確な目的と目標の設定

家庭学習の習慣化

学習環境とルールづくり

基本的な生活習慣の確立

家庭学習の6つのポイント

★目的と目標を設定する

- ・何ができるようになれば良いのか（目的）を決めましょう。
- ・目的の達成に向けて、何をするのか（目標）を決めましょう。

★家で勉強する時間を決めておく

- ・帰ってから勉強を始める時間を決めましょう。
- ・どれだけの時間勉強するのかを決めましょう。

※「部活動のある日」「部活動のない日」「塾などのある日」「休日」で勉強時間の基本的な計画を作っておくとよいです。

★机や身の周りのものを片付ける

- ・学習場所には、学習に必要なものは置かないようにしましょう。

★「ながら勉強」はしない

- ・テレビを見ながら、スマホ等を使いながら…といった学習のしかたはやめて、学習に集中しましょう。

★最初に「宿題」をする

- ・宿題は後回しにすると、結局できなくなることがあります。苦手な教科でも、必ず帰ったら宿題を最初にすることが大切です。
- ・出た宿題や課題は、提出日までに必ず仕上げましょう。

★答えを覚えるのではなく、考え方を覚える

- ・なぜそうなるのか、どうしたら解けるのかを理解しましょう。
- ・ワーク等の答え合わせをするときには、解説をよく読みましょう。

国語

中学校の国語において身につけたい力は、全部で4つです！

具体的には、「話す力・聞く力」「書く力」「読み取る力」「国語の知識」になります！

しかし！！どの力をつけるにしても根幹にある大切な力があります。

それが、語彙力（「どれだけ多くの言葉を知っているか」、「どれだけ言葉を使いこなせるか」に関する能力）です！！

国語という言語教科を学習するにあたって、語彙力は必要不可欠な力になります。

家庭学習をや読書を通して、少しでも多くの言葉に触れ、語彙力を高めていきましょう！！！！

1 家庭学習について

家庭学習では主に普段学習している単元や作品に関する語彙（言葉・語句）について学習しましょう。

①漢字の学習をする。

音・訓などの読み方はもちろん、筆順・部首などにも注意しながら書けるようにしましょう。

その漢字を使った短文を作るなど、使い方も覚えましょう。

②意味調べをする。

学習する単元や作品の中でわからない言葉があれば、意味調べをしておきましょう。

知っている言葉でも、調べてみると意外と間違っている使用していることに気づくこともあります。

③音読をする。

特に古典などの作品を学習しているときは、古典特有の言い回しや区切り方があるので、

教科書を音読し、さまざまな感覚（視覚、聴覚）を活かして学習していきましょう。

2 定期テストの対策について

①本文を何度も読む。

テスト当日、本文を一から理解しながら読んでいると、時間が足りなくなってしまうことがあります。あらかじめ範囲がわかっている本文は何度も読んでおき、どこにどんなことが書いてあるかを理解しておきましょう。

②漢字の練習をする。

繰り返し書いた後、自分でテストをするなど覚えているかどうかの確認をしましょう。何回書くとよいかは人によって異なります。自分に合った覚え方を見つけましょう。

③知識に関する内容の復習をする。

文法や表現技法、作品・作者、古典に関する知識は、便覧・資料集やワーク、ドリルパークなどで繰り返し復習をしましょう。

④原稿用紙の使い方を確認する。

段落の作り方や、符号（句読点やかぎなど）の書き方を便覧・資料集で確認しておきましょう。

3 アドバイス

上記で触れたこと以外に自主的に学習しておいた方が良いものを紹介します。

- | | | | |
|------|-------------------|-------|-------|
| ①慣用句 | ②熟語（四字熟語・熟語の構成など） | ③ことわざ | ④故事成語 |
|------|-------------------|-------|-------|

この4つは、学習しておかないとなかなか身に付きません。授業や読書をする中で新しい表現に出会った時に、便覧・資料集で確認したり調べたりして語彙を増やしていきましょう。定期テストだけでなく、実力テストや受験などでも問われることが多いので、日常生活の中で意識してこれらの言葉を使い、豊かな表現力を身に付けましょう！！



社 会 科

1 家庭学習

●地理的分野の学習方法

- ・地図を頭に入れることが大切です。世界地理の場合は州ごとに、日本地理の場合は地方ごとに、略地図を描いてみましょう。そこに、地形や気候、盛んな産業、重要語句などを書き込むとより効果的です。



●歴史的分野の学習方法

- ・「時代の流れ」をきちんと頭に入れることが大切です。そのために、歴史年表を作ることが効果的です。授業で習ったところを中心に略年表を作ってみましょう。「いつ、どこで、だれが、何のために、何をしたか」を書き加えると、より時代の流れを整理しやすくなります。余裕があれば、日本と海外の流れをリンクさせるとより効果的です。

●公民的分野の学習方法

- ・公民は現代社会の動きと関わっている部分がとても多い分野です。世の中の動きを知るために、新聞を読んだり、ニュースを見たりする習慣を身につけましょう。議院内閣制や三権分立などは、図式化すると関係性がわかりやすくなり、効果的です。

2 定期テストの勉強のしかた

- ・まずは、重要語句（教科書の太字）を覚えましょう。教科書を繰り返し音読し、何度も書き写しましょう。
- ・教科書や資料集にある資料の読み取りをしましょう。資料からわかることやどのような変化が見られるかなどを中心に読み取りましょう。
- ・学校で使っているワークに繰り返し取り組みましょう。何度も復習することが大切です。

勉強中です



3 アドバイス

- ・自主学習ノートを作り、授業があった日に復習しましょう。
- ・教科書を5～6回、声に出して音読しましょう。
- ・学校で使っているワークに取り組みましょう。
- ・重要語句を文で説明すると、記述問題の練習になります。

数 学 科

1 家庭学習

(1) 毎日の家庭学習

- その日の授業でノートに書いたことがきちんと理解できているか見直します。
- 授業中に行った練習問題（教科書の例題や問い）に、繰り返し取り組んだり、習った範囲のワークを進めたりするなど、反復練習をしましょう。

(2) 自主学習

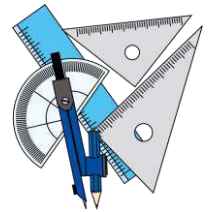
- 応用・発展的な課題に取り組みましょう。
- 教科書やワークに掲載されている応用問題や発展問題に取り組みます。教科書の後ろの「自分から学ぼう編」を活用するのもよいでしょう。また、過去の入試問題に取り組むのも力をつける方法の1つです。自分で問題が作れるようになると、さらに様々な力が定着します。

- ※自主学習ノートには、取り組んだ日・問題のページ・問題番号も書いておきましょう。
- 時計を見て、問題を解く時間を計りながら取り組むと、集中力UP!につながります。

2 定期テストの勉強のしかた

数学では、「はかせどん（速く、簡単に、正確に、どんなときも）」で解けるようになることが必要です。出題される学習内容を、もう一度自分で解き直し、解けるようになるまで練習しましょう。また、うっかりミスをなくすために、これまでの学習の中で、自分がミスをしたところを思い出せるノートをつくりましょう。そのノートは、自分にとっての最大のテキストになります。

テスト後は、テスト問題をやり直しましょう。間違った問題をそのままにしておいたら、力はつきません。テスト後は必ず自分の解答を振り返り、反省をしながら、間違った問題を解き直しましょう。その際は、なぜ間違ったのかを合わせてメモしておく、と、次回のテストにつながります。

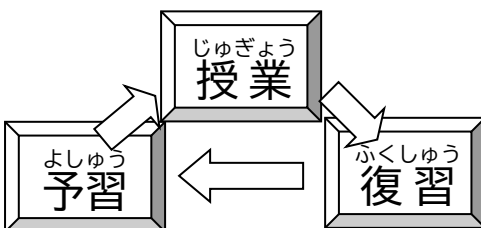


$$5a - a = 5 \quad \leftarrow \text{消さない}$$
$$\cancel{= (5-1)a}$$
$$= 4a$$

1a

3 アドバイス

下のようなサイクルで学習を進めていくと、より効果的な学習につながります！



- (1) 日頃から予習に取り組みましょう。
- (2) 授業では、予習をしたときになんとなく分かったつもりになっているものを特に集中して聞くようにしましょう！
- (3) 家に帰ったら復習しましょう。
- (4) 復習が終わったら、次の授業の予習をしましょう。



理科

1 家庭学習

<その1> その日に学習した教科書の内容を読み返そう。大切な用語だけではなく、写真や図も見返しましょう。

<その2> ノートを読み返そう。大切な用語を別のノートや紙に書いて覚えると効果的です。



気になったことは、コンピュータを活用したり、科学館や博物館を利用して調べられるとさらに良いですね。

2 定期テストの勉強の仕方

宿題として取り組んでいるワークや学習プリントを自分の力でもう一度やり直しましょう。

「大切な用語」は、きちんと書いて覚えましょう。また、漢字で表記してある用語は、正しい漢字で覚えることが大切です。特にワークや学習プリントで間違えた問題は何度も繰り返し解いて覚えるようにしよう。

3 アドバイス

(X) ✓ (1) ➡ ✓ (X) ✓✓ (1) ➡ ✓✓ (X)

1回目で解けた 1回目で解けなかった 2回目で解けた 2回目も解けなかった 3回目に解けた

解けたら問題番号に「/」を書き、解けなければ「✓」を書いていきます。そうすれば、ぱっと見ただけで、どの問題が解けていて、どの問題が解けていないかわかるようになります。同じ問題集を繰り返し解いていくときは、「/」が入っていない問題だけ解いていきます。

この方法を使えば、一回目はすべての問題を解くことになりますが、二回目以降は解けた問題はとばしていくことになるので、スピードが上がります。わからない所を重点的に解いていくことができます。

えいご 英語科



1 家庭学習

- 学習する単語・語句がどんどん増えていきます。一度にたくさん覚えようとせずに、毎日の家庭学習や自主学習の中で、確実に覚える工夫をしましょう！！
- 自宅の学習では、chromebook等を活用して、教科書の単語の音声を聞いたり、わからない単語を調べたりすると効果的です。
- 実用英語検定（英検）や TOEIC などにもチャレンジしてみましょう。

2 定期テストの勉強のしかた

まずは基本文や新出語句・文法を覚えよう。それができたら、学んだことを使って場面設定や状況に応じた表現ができるような問題に取り組みましょう。

3 アドバイス

学年別アドバイス

1年 小学校で学習したことを中学校でも活用できるようにしましょう。そしてどんどん声に出して英語を読むようにしましょう。

2年 復習が大事です。今までに学習したことで分からないところを発見して、早めに克服しておきましょう。

3年 受験に向けて基礎基本を確認し、応用問題にもどんどん取り組みましょう。

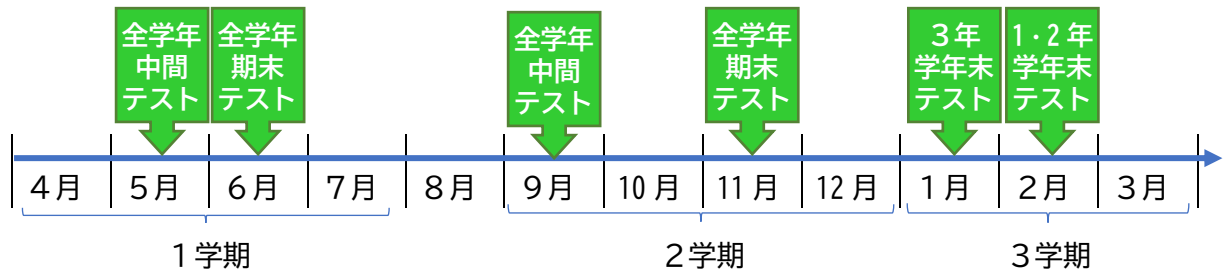
☆たくさんの英語に触れ、「聞く」「読む」「話す」「書く」の力を伸ばしましょう！



定期テストに向けた勉強のしかた

定期テストとは

- ・学習内容の定着状況を確認するために行うテストのこと。
- ・神戸中学校では、年間5回行う。

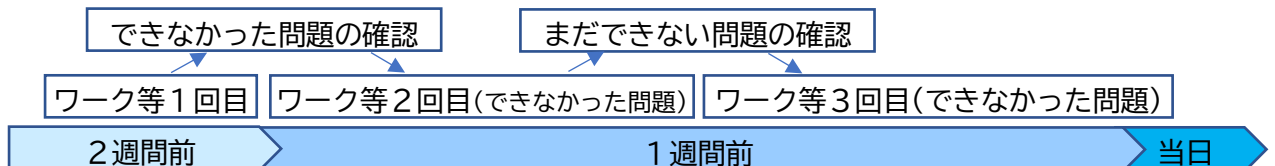


- ・中間テストは5教科（国・社・数・理・英）、期末テスト・学年末テストは全教科で行う。
- ・それぞれの定期テストは出題範囲が広いため、効率よく勉強をする必要がある。

定期テストに向けた勉強のしかた

①計画的に勉強しよう

- ・およそ2週間前から定期テストに向けた勉強を始めよう。
- ・テスト1週間前にはテスト範囲の発表があり、部活動が原則停止となります。さらに集中してテスト勉強に取り組もう。



- ・テスト直前に必死になるのではなく、毎日の授業に集中すること、毎日の家庭学習（予習・復習・自主学習）をコツコツ積み上げることが、最もよいテスト対策になります。

②教科書、ノート、ワークやプリントなどを使って勉強しよう

- ・教科書を何度も繰り返し読もう。
- ・ノートやワークシートを見直し、学習内容の重要なポイントを確認しよう。
- ・新出漢字や新出単語、重要語句などは、何度も書いたり、声に出したりして覚えよう。
- ・ワークやプリントの問題は繰り返し解こう。一度解いてわからなかった問題はチェックしておき、二度、三度とわかるようになるまで繰り返し解き直そう。

③わからないことは質問しよう

- ・わからないことがあれば、教科担当の先生に質問しよう。
- ・定期テスト直前には、教科担当の先生に質問ができる「放課後学習」が開かれます。積極的に活用しよう。

試験の受け方



- 1 机の落書きなどを事前に消しておく。
- 2 座席は出席番号順。
- 3 試験中は机の中には何も入れない。
- 4 筆記用具など必要な物のみ机の上に。神中バッグなどは全てロッカーの中。
鉛筆、シャープペンシル、消しゴム、定規などのみ机上。
下敷きは不要。筆箱も不要。
- 5 休憩はトイレ休憩のみ。予鈴で着席していること。
- 6 試験監督の先生の指示で、室長は始まりの号令をかける。
- 7 試験監督の先生が問題用紙などを配付する間、私語をしない。
問題用紙は裏面を上にして配布するので、指示があるまで表面を見ない。
両面印刷してある問題用紙は、静かに机上に。
- 8 試験監督の先生の合図で問題用紙・答案用紙を表面にして、試験を開始する。
- 9 最初に問題用紙が指示通りに印刷されているか確認する。
その後、答案用紙に組、席、名前を忘れずに書く。
- 10 試験中は、私語は一切禁止。
試験中とは、試験監督の先生が教室に行ってから、答案用紙を集めて、室長が
終わりの号令をかけ終わるまでの間のことをいう。
- 11 消しゴム等を落とした場合、勝手に拾わずに挙手して試験監督の先生に知らせる。
- 12 早く問題が終わった人は、しっかりと見直しをする。
自分の答案用紙は他から見えないようにする。
- 13 試験終了の合図があったら、速やかに筆記用具を置く。
- 14 各列の最後尾の人は、答案用紙を出席順になるように集める。
各列の分がうまく出席順になるようにして、試験監督の先生に出す。
この際、手際よく集める。他の生徒は私語をしない。席を立たない。
- 15 試験監督の先生の指示で、室長は終わりの号令をかける。